

# 勧誘場面の断りに見られる言い訳と不可表現 及び勧誘者の言語行動について

## —日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較—

吉田 好美

### 要 旨

断りを伝達する際には言い訳を用いることが多いが、その言い訳が断り発話においてどの程度の重みを持つのか、また言い訳使用の断りを聞いた勧誘者が、どのような言語行動を取るのかは、文化によって違いがあると思われる。そこで本研究では、勧誘場面での日本人女子学生(JNS)とインドネシア人女子学生(INS)の断りの談話において、断り発話に見られる言い訳及び不可表現の使用頻度の違い、言い訳と不可表現それぞれを使用した断り発話に対する勧誘者の言語行動の違いについて分析した。その結果、断り発話については、JNS は言い訳のみを使用して断りの意志を伝達する傾向があり、INS は不可表現を使用して断る傾向が見られた。また断り発話に対する勧誘者の言語行動については、言い訳のみを使用した断り発話に対して、JNS の勧誘者はそのままその断りを受諾するが、INS は再勧誘をする傾向が示された。

【キーワード】言い訳、不可表現、再勧誘、断りの受諾

### 1. はじめに

断りを遂行する過程においては、我々は様々な言語行動を用いる。なぜなら断りは、社会的に認められた自己像であるフェイス(Face)を脅かす言語行動、つまり「フェイス侵害行為(Face Threatening Act)」であるため(Brown&Levinson (1987))、断り手はもちろん、その断りを受けた勧誘者も互いの人間関係を維持しようと、様々なやりとりをするものである。そのやりとりの中でもよく用いられる言語行動として、理由を説明するための「言い訳」が挙げられる。Goffman(1971)は、理由を説明するという行為は「事実上の危害(virtual offence)」に対する「修復作業(remedial work)」のひとつであるとしている。ここで言う危害とは、勧誘者の勧誘に応じないことで相手の面子をつぶすことである。もちろん、「できない」「無理だ」などといった直接的な不可表現を使用すれば、断りを遂行することは可能であるが、理由を説明したほうが人間関係が損なわれずに済むと考えている人は多いと思われる。つまり断りにおいて、言い訳は重要な役割を果たしていると言える。

しかし言い訳が断りにおいて、どのような役割を果たすのかは、文化によって異なっているように思われる。

筆者はかつて、ある外国人から日帰り旅行の勧誘を受けたことがある。しかしその日は用事があり、断りの意図を伝達したのだが、その意図がいつまで経っても伝わらず、延々と勧誘を受け続けて困った経験がある。なぜこのような状況になってしまったかを考えたのだが、筆者は「その日は都合が悪い」「用事があるから」などと言い訳のみを述べて、直接的に不可表現を使っていなかったからであった。その時筆者は、言い訳だけと言って、断りの意図を察してもらおうと思ってコミュニケーションを取っていたことに気づき、同時に言い訳だけの断りを聞いたら、日本語母語話者は察してくれそうだが、日本語非母語話者は、どうやらそうではないらしいということにも気づいたのである。

このように言い訳が、断りという行為の中でどの程度の重みを持つのか、直接的な不可表現を使用した場合と比べて違いがあるのか、勧誘者がその言い訳を使用した断りを受け止めた後にどのような言語行動を取るのかは、文化間によって違いがあると考えられる。そして場合によっては、互いに違和感を覚え、ミスコミュニケーションが生じることもある。

そこで本研究では、勧誘場面の断りで使用される言い訳と不可表現、及びそれらに対する勧誘者の言

語行動に着目し、言い訳や不可表現が、断りの談話にどのような影響を与えるかについて分析したい。

なお、断りの理由を説明する言語行為については、Beebe ら(1990)では Excuse, Reason, Explanation としており、日本語訳でも、言い訳・理由・弁明など様々な言葉が使われているが、本研究では、西村(2007)と藤原(2004)の先行研究を倣い、「言い訳」に統一することとする。

## 2. 先行研究

### 2.1 断りにおける言い訳に着目した研究

まず断りに関する研究で、よく援用される枠組には、英語母語話者と日本人上級英語話者の英語の断りについて調査した Beebe ら(1990)が作成した意味公式(Semantic Formula)がある。意味公式は断り表現の構成を、言語形式ではなく機能別に分類した枠組で、遂行や不可などの「直接的断り」(Direct refusals)、謝罪や言い訳・代案などの「間接的断り」(Indirect refusals)、感謝やフィラーなどの「付随表現」(Adjuncts to refusals)の3つのカテゴリーに分類されている。Beebe ら(1990)以降、日本語の断り研究でも、藤森(1995)、藤原(2004)、倉本・大浜(2008)など、Beebe らの意味公式を援用、修正した枠組を用いているものが数多く見られる。

断りに関する研究の中で、言い訳に着目したものとしては、藤森(1995)、藤原(2004)、西村(2007)がある。

藤森(1995)は日本語学習者が理由を述べる際に、「ので」「から」を使用せずに、言い切りの文章を使用する傾向があるとしている。また一方で「今日は疲れてるし、もともとテニスは好きじゃないから、あとにしよう」などといった弁明の多用現象と言えるような、理由を重ねて述べるストラテジーを使用する傾向があり、それらが押し付けがましい印象を与える可能性があるとしている。

藤原(2004)では、日本語母語話者とインドネシア語話者の勧誘に対する断りを、談話完成テストで調査し分析したところ、日本人は「都合が悪い」などといった「曖昧な言い訳」が多く、インドネシア人は誰とどこで何をするという具体的な内容の理由を述べるなど「明確な言い訳」が多かったとしている。

西村(2007)では断り発話の言い訳に着目し、日本人とニュージーランド人の母語場面における友

人同士のペアで、勧誘に対する断りを、ロールプレイで調査し分析している。その結果、日本人は「体調不良」を、ニュージーランド人は「用事」を言い訳として用いることが多いことが明らかになった。なお西村は、言い訳に対する勧誘者の言語行動も分析しており、それについては次項で述べることとする。

### 2.2 断りに対する勧誘者の言語行動に着目した研究

勧誘のストラテジー及び談話構造、またそれに対する断りについての研究はこれまでザトラウスキー(1993)や宇佐美(2006)などがあるが、勧誘者及び断り手である被勧誘者の発話に着目し、分析したものとしては、倉本・大浜(2008)、西村(2007)が挙げられる。

倉本・大浜(2008)では、日本人学生を対象として、勧誘者と被勧誘者のやりとりを分析し、Beebe ら(1990)を援用した意味公式及び行為類型を立てた。勧誘者は「行こうよ」などといった勧誘そのもの、及び「これから二次会あるんですけど」といった前置きや、被勧誘者に対する情報提供が見られ、被勧誘者には断りや、「じゃ、私も行くわ」といった勧誘受諾や、「途中で帰ってもよければ」といった条件提示が見られたとしている。また被勧誘者が断りを示した場合、多くの場合が断り理由を否定して再勧誘が見られたとしている。

西村(2007)では、被勧誘者の断りを受けた勧誘者で、日本人は、「宿題がある」という言い訳に対し「適当でいいよ」と言う、あるいは、「頭が痛い」という言い訳に対し、「(菓を)飲めば治る」というように被勧誘者の言い訳へ反駁する形で、ニュージーランド人は、「ちょっとだけ」或いは「明日は？」といったような譲歩案を提示する形でより多く再勧誘が行なわれたことが分かった。

以上の研究では、日本語母語話者と日本語非母語話者の言い訳の質や頻度、言い訳に対する勧誘者の反応の違いを明らかにしている。しかし明示的に不可表現を使用した場合と言い訳を用いた際の勧誘者の反応を比較して、それぞれが断りの中で果たす役割について分析したものは、管見の限り見当たらず、言い訳が断り発話の中でどれほどの影響を持っているのかについて言及した研究はない。このような観点からの研究は、異文化間コミュニケーション、あるいは接触場面でのコミュニケーションにおいて、

摩擦を軽減し、円滑なコミュニケーションを実現するのに必要なものだと考えられる。

### 3. 研究目的と研究課題

本研究では、日本人女子学生(以下 JNS)とインドネシア人女子学生(以下 INS)の断りのコミュニケーションに見られる言い訳と不可表現についての特徴を明らかにすることを目的とする。そのために JNS と INS の勧誘に対する断り発話における言い訳及び不可表現の使用頻度と、断り発話に対する勧誘者の言語行動についての差違について分析したい。研究課題(以下 RQ)は以下の通りである。

RQ1. JNS と INS の断り発話において、言い訳のみを使用した断り発話、及び不可表現を使用した断り発話の使用頻度には、どのような特徴が見られるか。

RQ2. JNS と INS の断り発話に対する、勧誘者の言語行動にはどのような特徴が見られるか。

RQ2-1. 言い訳のみを使用した断り発話に対する JNS と INS の勧誘者の言語行動には、どのような特徴が見られるか。

RQ2-2. 不可表現を使用した断り発話に対する JNS と INS の勧誘者の言語行動には、どのような特徴が見られるか。

## 4. 研究方法

### 4.1 調査方法

データは JNS と INS 各 35 組の母語場面会話で、勧誘に対する断りのロールプレイ会話を収録し文字化したものをを用いた。調査対象者は全員女子学生で、年齢は 18 歳から 24 歳である。調査対象者を女子学生に設定したのは、性差による影響を排除するためである。またなるべく自然な会話を収集するために、先輩、後輩などの上下関係がない、クラスメート同士つまり同等関係のデータを収集することとした。ロールプレイの際には、実際のクラスメート同士でペアを組み、言葉の丁寧さや方言使用を見るものではない旨を伝え<sup>1)</sup>、なるべく普段と同じような状況で話してもらうように促した。

ロールカードは表 1 のように設定した。A を勧誘者、B を断り手とし、勧誘者が映画に誘い、断り手は「家の用事で田舎に帰る」という理由を提示した設定にした。特定の理由を設定したのは、JNS と INS の双方に起こりうる同じ条件の理由を設定することで、どのような言い訳を述べるかということに

ついて見たかったためである。断り手のロールカードには、「断り」を誘導せずに自然な会話を誘出するために、「断ってください」などの指示をあえて出さず、「あなたならどうするか」と問い、断るか断らないかは、断り手の判断に任せることにした。

ロールカードは、日本語版とインドネシア語版を作成した。インドネシア語版は、インドネシア語母語話者に翻訳を依頼して作成した後、インドネシア語が堪能な日本人にバックトランスレーションを依頼し、ロールカードの内容が日本語とインドネシア語で同等になるようにした。

表 1 ロールカード(日本語版)

A:あなたは明日、映画を見に行きたいと思います。あなたは友達 B さんも誘っていっしょに行きたいと考えています。これから B さんに、明日映画に行こうと誘ってください。
B: あなたは、A さんから、明日映画に行こうと誘いを受けます。しかしあなたは明日、家の用事で田舎に帰らなければならない、どうしても行くことができません。もしこのような状況だったら、あなたなら A さんの誘いにどう答えるかを考えながら A さんと会話してください。

### 4.2 分析枠組

RQ1、RQ2 ともに断り手と勧誘者の言語行動について分類した表 2 の分析枠組を使用する。

断り手の分析枠組は、Beebe(1990)の断りの意味公式(Semantic Formula)から、不可表現と言い訳を使用しているものに着目し分類した。なお、本研究では、フィラーやためらいなどの付随表現は分析対象外とする。また謝罪や代案などの間接的断りについてだが、本研究では言い訳と不可表現の使用に着目した断りについて分析するため、謝罪のみ、あるいは代案のみで断りを表現しているものについてはその他とし、分析対象外とする。

勧誘者の分析枠組については、倉本・大浜(2008)の「会話中に使用された意味公式及び行為類型とその発話例」を援用し筆者が修正したものを使用する。

勧誘者の「そっか」「そうなんだ」などは、単なるあいづちではなく、相手の断りの理由に対する理解や共感を表す「受け止め」(徐 2007)<sub>2</sub>とする。遺憾、気遣いなどは断り手の意志を受諾したものともみなすため、受諾に分類し、「直接勧誘」「断り理由の否定」「勧誘理由」など、倉本・大浜(2008)では勧誘のカテゴリーに分類しているが、本研究では断り発話があったあとの勧誘発話を分析しているため、

表2 本研究で使用する断り及び勧誘の分析枠組 Beebe (1990) 倉本・大浜(2008)を参照 筆者改定

	意味公式		機能	会話例
断り手	不可表現		明示的に相手の意向に沿うことが不可能であることを表す。	ちょっとだめなんだ。 行けない
	言い訳		相手の意向に沿えない理由・言い訳を表す。釈明する。	明日用事があるんだよね。 田舎帰んなきゃなんなくて
	その他	代案	断り手が問題解決の方法として他の方法を提示する。	来週は？
		謝罪	相手の意向に沿えないことに謝りの気持ちを表す。	ごめんね
勧誘者	受諾	受け止め	相手の断りの理由に対する理解や共感を表す。	そうか／そっか／分かった
		感謝	感謝の気持ちを表す。	ありがとう
		遺憾	相手の言ったことに対して、残念な気持ちを表す。	残念だね
		気遣い	相手の断りに対して気遣いの発言をする。	気にしないで、大丈夫
		共感	相手の状況に対する理解を示し、相手に歩み寄る。	おばあちゃん病気なら 帰ってついててあげて
	再勧誘	直接勧誘	勧誘する態度を示す。	一緒に行こうよ
		勧誘理由	勧誘に当たってその理由を述べる。	新作やってんのよ
		断り理由の否定	相手の断りの理由に対して、否定し、他の案を提示する。	(田舎に)来週帰りなよ
	その他	代案	勧誘者が問題解決の方法として、他の方法を提示して、再勧誘に繋げられるように調整する。	あさっては？
		情報要求	相手の言ったことに対して、更に具体的にもう一度詳しい情報を確認する。	なんで？
		繰り返し	相手が言った内容の一部もしくは全部を、下降イントネーションで繰り返す。	(断り手が田舎に帰ると言ったことに対して)田舎。
		情報確認	相手が言った要件について、上昇イントネーションで、もう一度内容確認をするために聞き返す。	(断り手が田舎に帰ると言ったことに対して)田舎帰るの？
		驚き	驚きを表す。	まじで？
		断りへの不満	相手の断りに対して、批判や不満を述べる。	なんで断るの？

再び勧誘している働きのものとし、再勧誘とする。

### 4.3 分析対象

分析対象は、会話例 1 のように、RQ1 では勧誘の働きかけがあった直後の最初の断り発話とし、RQ2 ではそれに対する勧誘者の発話とする。なお会話例に挙げた発話の文字化資料の最初の数字は発話者の通し番号で、次のアルファベットは、A は勧誘者、B は断り手を、: は音の引き伸ばし、? は上昇イントネーションをそれぞれ表す。例中の下線のアンダーラインは説明で取り上げた箇所を示す。

会話例 1: JNS

1A: 明日映画いかない？

RQ1 → 2B: 明日? 明日ちょっと予定あんだけど。

RQ2 → 3A: そっか: 残念だな。

RQ1 では、会話例 2 のように言い訳のみを使用している断り発話(以下、「言い訳のみ使用」)と、会話例 3 のように不可表現を使用している断

り発話(以下、「不可表現使用」)の使用頻度について分析した。なお、断り発話に不可表現と言訳の両方が使用されているものについては、明示的に不可を伝達する表現が含まれているため、「不可表現使用の発話」としてカウントした。

会話例 2: 言い訳のみ使用の断り発話例

4B: ああ、明日家の用事で田舎かえんなきやいけないんさ。

会話例 3: 不可表現使用の断り発話例

①2B: ん 明日か: 明日だめだよ。

②2B: 明日だめよ。田舎帰るのよ。

RQ2 では、RQ1 で分析した 2 種類の断り発話の直後に出現する、勧誘者の言語行動について分析する。受け止めなど主に受諾表現を使用して断りを受諾しているもの(以下「受諾使用」)断りを受諾せずに勧誘をしているもの(以下「再勧誘」)に分け、断りがどのように勧誘者に捉えられているかを考察する。



以下に示す会話例 4 では、勧誘者が映画を見に行こうと誘っているが (5A)、断り手は田舎に帰るという言い訳をしている(6B)。それに対する勧誘者の答えは、「ああ、そうなんだ」とまず相手の断りを受け止めてから、「じゃあ、気をつけて」と相手を気遣う発話をしているため(7A)、受諾と分類する。

会話例 4 : JNS

5A:んと みんなでいっしょにみにいこ。

【勧誘】

6B:ああ、あたし明日田舎に帰んなきゃいけないんだよ。 【言い訳のみ使用】

7A:ああ、そうなん。じゃあ気をつけて。

【受諾】

一方、以下に示す会話例 5 では、勧誘者の映画の誘いに対して(1A)、断り手は、明日田舎に帰る用事があると伝えている(2B)。それに対して勧誘者は、映画が割引になっていて値段も提示して、勧誘理由を述べているため(3A)、再勧誘と分類する。

会話例 5 : INS:

1A: Besok torang mo pigi bauni

2B:Besok? ya:: kita besok kita pe rencana mo pulang kampung, ada urusan le ini.

3A :ya nomat le kua Cuma 15.000, le

訳:

1A:明日いっしょに映画に行こうよ。【勧誘】

2B:ああ、明日田舎に帰る予定があるのよ。  
用事があるの。 【言い訳のみ使用】

3A:ええ、割引なのよ。(チケット代が)15000ルピアだけなのよ。 【再勧誘】

## 5 結果

### 5.1 RQ1 : 断り発話の「言い訳」「不可表現」

分析結果は、以下図 1 の通りになった。断り発話の中で、言い訳のみ使用の断り発話は、JNS に 18 組(51.4%)、INS に 11 組(31.4%)見られた。一方で不可表現使用の断り発話は、JNS に 8 組(22.8%)、INS に 13 組(37.1%)見られた。このことから、JNS と INS を比較すると、JNS は言い訳のみを使用する断り発話のほうが多く、INS は不可表現使用を使用する断り発話のほうが多いことが分かった。



図 1 JNS と INS の断り発話における言い訳及び不可表現を使用した断り発話の割合

以下に示す会話例 6 は、JNS に多く見られた例である。断り手は、勧誘に対して(6A)、田舎に帰らなくてはならないと言い訳のみをして、発話を終えている(7B)。

会話例 6 : JNS

6A:明日あたし映画見に行こうと思ってるんだけど、ゆかも行かない? 【勧誘】

7B:明日、明日はね、田舎帰んなきゃいけないんだよ。 【言い訳のみ使用】

以下に示す会話例 7 は INS に多く見られた例である。断り手は、行けないと不可表現を明示的に使用したあとで田舎に帰ると言い訳をしている(2B)。

会話例 7 : INS

1A:Tini, besok torang mo pigi TO ngana suka iko?

2B:Ya:::ga bisa, besok de mo pulang kampung

訳:

1A:ティニ、明日映画館に行こうよ。行きたくない? 【勧誘】

2B:ああ、行けないわ。明日田舎に帰んなきゃならないのよ。 【不可表現使用】

### 5.2 RQ2 : 断り発話に対する勧誘者の発話

#### 5.2.1 RQ2-1 : 言い訳のみの断り発話

RQ1 で分析した言い訳のみを使用した断り発話、JNS18 組、INS11 組に対しての、勧誘者の発話について分析した結果、以下表 3 の通りとなった。なお、会話例の詳細は、稿末資料 1 を参考にされたい。

表 3 言い訳のみ使用の断り発話に対する勧誘者の言語行動について比較

	受諾	再勧誘	その他	合計
J N S	11 (61.1%)	0 (0%)	7 (38.9%)	18 (100%)
I N S	0 (0%)	7 (63.6%)	4 (36.4%)	11 (100%)

JNS は「そうか」「そうなんだ。いつ帰るの?」「あ、そうなん。じゃ気をつけて」などといった、受け止めのみ、受け止めと情報要求、あるいは受け止めと相手への気遣いなど、受諾の発話が 18 組中 11 組(61.1%)見られたが、INS には受諾の発話は全く見られなかった。

一方 INS には「いい映画なのよ」「チケット代払うから」などの勧誘理由、及び「行こうよ」などの直接勧誘といった再勧誘の言語行動が含まれている発話が 11 組中 7 組(63.6%)に見られたが、JNS には再勧誘の発話は全く見られなかった。

以下に示す会話例 8 は JNS に多く見られた例である。勧誘者は、断り手を映画に誘うが(1A)、明日田舎に帰らなくては行けないと言い訳のみで断られている(2B)。それに対して、「田舎帰んの。」と相手の言ったことを確認したあと「あ、そうなんだ。じゃあいいや」と相手の断りを受諾して、勧誘をやめている(3A)。

会話例 8 : JNS

1A:明日映画見に行きたいんだけど、一緒に行かない? 【勧誘】

2B:明日田舎帰らないといけないから。

【言い訳のみ使用】

3A:田舎帰んの。あ：そうなんだ じゃあいいや。 【受諾】

以下に示す会話例 9 は INS に見られた例である。勧誘者は、無料チケットがあるといって誘うが(1A)、田舎に帰ると断られる(2B)。その後、困惑を示し、断られたらチケットが無駄になるから、一緒に行こうと勧誘理由を述べてから、直接勧誘をすることで、再勧誘をしている(3A)。

会話例 9 : INS

1A : Eh:: Kita ada dua tiket gratis,buat besok,ngana suka iko deng kita?

2B :Ya::bagaimana e:: Kita ada apa? Ada mo pulang kampung.

3A :Ya kong bagaimana dang? Sia-sia dang kita dapa tiket gratis ini pigi jo kua deng kita.

訳:

1A:ええと、明日映画の無料チケットが 2 枚あるんだけど、いっしょに行かない?

【勧誘】

2B:ああ、どうしよう。あたしね田舎に帰るの。

【言い訳のみ使用】

3A:そう? どうしよう? そうしたらこのチケット無駄になっちゃうわ。いっしょに行こうよ。 【再勧誘】

以上のように、言い訳のみの断りでも、JNS はその断りをほぼ受諾するのだが、INS は言い訳のみだと、断りを受諾せず、勧誘理由や直接勧誘などで再勧誘をする傾向があることが分かった。

### 5.2.2 RQ2-2 : 不可表現使用の断り発話

RQ1 で分析した、JNS8 組、INS13 組に見られた不可表現を含む断り発話に対する勧誘者の発話について分析した結果、以下表 4 の通りとなった。なお、会話例の詳細は、稿末資料 2 を参考にされたい。

JNS には受諾の表現使用が 8 組中 4 組(50%)見られた。また勧誘理由を述べて、再勧誘を試みている発話が 1 組(12.5%)見られた。一方 INS には勧誘理由や直接勧誘など、再勧誘しているものが 13 組中 7 組(53.9 %)見られる一方で、相手への気遣いである「tidak apa apa(大丈夫)」を使用して相手の断りを受諾している会話例が 4 組(30.7%)見られた。

表 4 不可表現使用の断り発話に対する勧誘者の言語行動について比較

	受諾	再勧誘	その他	合計
J N S	4 (50%)	1 (12.5%)	3 (37.5%)	8 (100%)
I N S	4 (30.7%)	7 (53.9%)	2 (15.4%)	13 (100%)

以下に示す会話例 10 は、JNS が不可表現で断り、それに対して勧誘者が受諾した例である。

勧誘者は、断り手が祖母の家に行かなくてはならないから明日は行けないと、言い訳をしてから不可表現で断ったのを受けて(4B)、「そっか」と受諾している(5A)。

#### 会話例 10 : JNS

3A:明日映画見に行きたいんだけど行かない？

【勧誘】

4B:明日は、今日の夜からおばあちゃんちに帰  
んなくちゃいけないから、明日は行けない  
んだけど

【不可表現使用】

5A: そっか。

【受諾】

以下に示す会話例 11 は INS が、不可表現を使用して断っているにも関わらず、勧誘者が再勧誘している例である。

勧誘者が断り手に、明日用事があるかを尋ね映画に誘ったところ(1A)、明日は田舎に帰ると言い訳され、行けないと不可表現で断られている(2B)。それに対して、もう一度、相手と一緒に映画を見たいと再度、直接勧誘をすることで再勧誘をしている(3A)。

#### 会話例 11 : INS

1A:Miranti emm Ngana besok sore ada acara apa?  
torang mo pigi ba uni?

2B:Ya:besok sore kita da pulang kampung, jadi  
ndak bisa ya

3A:Mo pulang kampung? O:: pada hal kita mo  
pangge pa ngana mo ba uni film deng kita kua  
di TO

訳：

1A:ミランティ、ええと、明日夕方、何か用事  
ある？映画館に行こうよ。

【勧誘】

2B:ああ、明日の夕方田舎に帰るのよ。だから  
行けないわ。

【不可表現使用】

3A:田舎帰るの？ああ、私は明日映画館でいつ  
しょにあなたと映画を見たいのよ。

【再勧誘】

以上のように、不可表現使用で断られたときに、JNS は再勧誘の 1 例を除き、ほとんどその断りを受諾していた。INS においては、不可表現を使用したところ、勧誘者が断りを受諾する例が見られたが、それでも再勧誘をする傾向のほうが強いことが分かった。

#### 6. 結果のまとめと考察

結果をまとめると、RQ 1 の断り発話については、JNS のほうが INS よりも言い訳のみで断る傾向が多く、一方、INS のほうが JNS よりも断りに不可表現を使用する傾向が見られた。RQ2

の断り発話に対する勧誘者の言語行動については、言い訳のみを使用した断り発話に対して、JNS の勧誘者はその断りを受諾し、INS の勧誘者は再勧誘をする傾向が強いことが分かった。不可表現を使用した断りに対しても、JNS には言い訳のみの場合と同様に受諾する傾向が見られた。一方 INS は、受諾する例も見られたが、再勧誘の例のほうが多く見られた。つまり JNS にとっては、言い訳が断りの中で果たす役割が大きいという特徴が浮き彫りになったと言えよう。

JNS のほうが、不可表現使用が少なく言い訳のみで断る傾向が強いのは、言い訳だけで断りの意図を伝えることが出来ると判断しているからだと考えられる。また不可表現を使用するとしても、不可表現のみを使用せず、初めに言い訳や謝罪などを述べるが多く、その時点で勧誘者に断りの意図が伝わっていると判断し、補足的に不可表現を使用していると思われる。そのため、言い訳のみの断りでも JNS の多くが断りと認識し、断りを受諾した例が多かったと推測される。一方 INS では、言い訳のみの断りだと、受諾せずに再勧誘していた例が多かったのは、言い訳そのものが断りの中で果たす役割が JNS ほど大きくないからだと考えられる。言い訳のみだと断りだと認識されず、まだ交渉する余地があるとみなされ、再勧誘をしたと推測される。また不可表現を使用した場合でも、すぐに引き下がらなくなるべく交渉を続けて人間関係を維持しようと考えていると思われる。

JNS と INS のコミュニケーションで起こりうる問題としては、JNS が言い訳のみで断っても、INS はそれが断りだと理解できずに、再勧誘をすれば、JNS にとっては INS がしつこいという印象を持ってしまう可能性がある。また INS にとっては、JNS があっさり断りを受諾し、再勧誘しない態度が、冷淡だと捉えられる可能性も出てくるとと思われる。JNS の言い訳使用と INS の再勧誘について、互いに理解していけば、ミスコミュニケーションの軽減につながるのではないかとと思われる。

#### 7. 問題点と今後の課題

今回は勧誘における言い訳と不可表現の使用について分析をしたが、ひとつの場面のみのデータ

であったため、この結果を一般化することはできない。また言い訳と不可表現の内容について質的な分析にまで至らなかった。今後は勧誘のみならず依頼など他場面での実態についても調査し、更に質的な内容についての分析を行ってきたい。

## 謝辞

本論文執筆にあたり、お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の佐々木泰子先生にご指導を賜りました。ここに深く感謝いたします。また貴重なコメントだけでなく励ましの言葉もくださった査読の先生方に心より御礼申し上げます。最後に、佐々木ゼミの皆様と調査協力者の皆様に感謝申し上げます。

## 注

1. データ収集を行った場所は、JNS は北関東の某大学で、INS は北スラウェシ州マナド市の大学で、地域の方がある。
2. 先行研究では、あいづち、フィラーなどは分析対象外としている場合が多く、分析対象としていても、そのままあいづち、フィラーとしている場合が多い。意味公式は機能別の分類のため、機能の名称として「受け止め」(徐 2007)を使用した。
3. 勧誘の働きかけのあとに、断り発話がすぐに出現せずに、「明日？」といった聞き返しや「何時？」などの情報要求が入っている会話例もあるが、本稿では分析対象としない。
4. INS の会話データには、北スラウェシ州のマナド方言が含まれており、発音・表記・表現・言い回しは、標準インドネシア語と異なるところがある。

## 参考文献

宇佐美まゆみ(2006)「準自然場面における「誘い行動」の日韓比較 -ディスコース・ポライトネス理論の観点から-」『日本研究』第 28 号、韓国外国語大学校日本研究所、47-72。

カノックワン・ラオハブナキット(1995)「日本語における「断り」-日本語教科書と実際の会話との比較-」『日本語教育』87 号、25-39。

熊井浩子(1992)「外国人の待遇行動の分析-2-断り行動を中心に-」『静岡大学教養部研究報告 人文・社会科学篇』第 28 巻第 2 号、266-227。

倉本美喜子・大浜るい子(2008)「もう一つの勧誘行動—日本人学生による 2 次会への勧誘行動について」『広島大学日本語教育研究』(18)、57-63。

徐孟鈴(2007)「上級の台湾人日本語学習者の「再依頼のストラテジー」--日台両母国語場面のロールプレイデータと比較して」『表現研究』85 号、22-33。

西村史子(2007)「断りに用いられる言い訳の日英対照分析」『世界の日本語教育』17、93-112。

藤原智栄美(2004)「日本語話者とインドネシア語話者の断りに関する研究」『大阪大学言語文化学専攻博士論文』

藤森弘子(1995)「日本語学習者に見られる弁明意味公式の形式と使用-中国人・韓国人学習者の場合-」『日本語教育』87 号、79-89。

ポリリー・ザトラウスキー(1993)「日本語の談話の構造分析：勧誘のストラテジーの考察」くろしお出版

森山卓郎(1990)『断り』の方略:対人関係調整とコミュニケーション』『言語』第 19 巻 8 号、59-66。

吉田好美(2009)「勧誘場面の断りに見られる弁明について—日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較—」第 38 回日本言語文化学会研究発表要旨『言語文化と日本語教育』38 号、124-127。

Beebe,L.,Takahashi,T.,&Uliss-Welzs,R.(1990).Pragmatic transfer in ESL refusals. In R.Scarcella,E.Andersen,&S. Krashen(Eds) *Developing communicative competence in a second language*, 55-73.

Brown,P and Levinson,S (1987) *Politeness Some Universals in language usage*, Cambridge University Press

Goffman Erving (1971) *Relations in public*, London: Allen Lane The Penguin Press

よしだ よしみ／お茶の水女子大学大学院 国際日本学領域

hatchy8@hotmail.com

稿末資料 1 言い訳のみを使用した断り発話に対する勧誘者の言語行動の比較

言語 行動	出現パターン (発話例)	JNS (組)	INS (組)
受諾	<u>受け止め</u> (そっか)	4	0
	<u>受け止め</u> +情報要求 (そうなんだ。実家どこだっけ?)	2	0
	<u>受け止め</u> +気遣い (あ、そうなん?じゃ気をつけて)	1	0
	繰り返し+ <u>受け止め</u> (相手が田舎へ帰るといったことに対して「田舎帰る。そうか。」)	3	0
	<u>受け止め</u> +断りへの不満 (そうなん?明日じゃなくちゃだめなん?)	1	0
再勧誘	<u>勧誘理由</u> (割引デーだから安いよ。わたしが払うわ)	0	3
	繰り返し+ <u>直接勧誘</u> (実家帰るの?あなたと映画に行きたいのよ)	0	1
	<u>勧誘理由</u> + <u>直接勧誘</u> (行かなかったらチケット無駄になるから、いっしょにいこうよ)	0	1
	<u>直接勧誘</u> + <u>勧誘理由</u> (いこうよ。安いよ。〇〇の映画なのよ)	0	2
その他	繰り返し (秋田に帰るという断り発話に対して「秋田」)	1	1
	断りへの不満 ((田舎に帰るのが)明日じゃなきゃだめなん?)	1	1
	驚き (ええ?まじで?)	2	0
	繰り返し+驚き (ああ、そうか、へえ)	1	0
	繰り返し+情報要求 (田舎、なんで、なんで?)	1	0
	代案 (じゃあ、あさっては?)	1	0
	情報確認 (つまり行けないのね)	0	1
	情報要求 (なんで?)	0	1
合計		18	11

稿末資料 2 不可表現を使用した断り発話に対する勧誘者の言語行動の比較

言語 行動	出現パターン (発話例)	JNS (組)	INS (組)
受諾	<u>受け止め</u> +情報要求 (そうなんだ。実家どこだっけ?)	1	0
	繰り返し+ <u>受け止め</u> (相手が田舎へ帰るといったことに対して「田舎帰る。そうか。」)	1	0
	<u>受け止め</u> +遺憾 (そっか。明日ね、ちょっと〇〇の映画って(思ってた))	1	0
	<u>受け止め</u> +気遣い (いいよ 気にしないで)	1	1
	<u>受け止め</u> +共感 (OK。おばあちゃん病気なら帰ってついててあげて)	0	1
	<u>気遣い</u> +感謝 (大丈夫。ありがとう)	0	1
	<u>気遣い</u> +代案 (大丈夫。でも来週いっしょに行こうね)	0	1
再勧誘	<u>勧誘理由</u> (新作やってんのよ)	1	5
	情報要求+ <u>直接勧誘</u> (なんで?いっしょに行こうよ)	0	1
	<u>断りの理由否定</u> + <u>直接勧誘</u> (来週帰るよ、いっしょに行こうよ)	0	1
その他	情報確認 (田舎かえるの?)	1	1
	繰り返し+情報要求 (田舎、なんで、なんで?)	1	0
	代案 (じゃああさっては?)	1	0
	断りへの不満 (なんでだめなの?)	0	1
合計		8	13

# The differences in expressions of refusals between Japanese and Indonesian: their “excuse” “direct refusal” and the responses of the counterparts in their language use

YOSHIDA Yoshimi

## Abstract

In the event that people respond to the invitation from another person with the message of refusal, most of the times they make “excuses”, however, the degree of impact that such excuses could convey to the counterparts regarding the sense of refusal, or the verbal responses from the counterparts as a result of listening such excuses will be different according to the cultures.

This research analyzed the differences in expressions of refusals between Japanese female students (JNS) and Indonesian female students (INS). Firstly, I analyzed the difference between excuses and direct refusals among their expressions of refusals. Secondly, I analyzed the differences of the responses of the counterparts in their language use under each of the messages of excuse and direct refusal.

The results of this research have shown that JNS prefers to use “excuses” to refuse invitation. In contrast, direct refusals are more preferred by INS. Also, the research has shown the result that in the event that JNS receives “excuses” for the invitation, they will accept such refusal, however, INS will invite again if they receives only excuses.

【Keywords】 Excuse Direct refusal Re-invitation Acceptance of refusal

(Department of Japanese Studies in a Global Perspective, Graduate School, Ochanomizu University)